

G3 平成 23 年度活動報告

大森 肇, 坂本昭裕

【1】活動目的

本プロジェクトにおいてグループ 3 (G3) のめざす最終ゴールは、「筑波大学の共通体育における再構築モデルの実践と評価」である。これは、「筑波大学体育センターの教育活動を中心とした『大学体育』の過去の総括と現状把握」を目的とする G1 の活動と、「大学体育カリキュラムモデルの再構築」を目的とする G2 の活動との延長線上に位置付けられる。

平成 21 年度において、G3 では「評価方法の確立に向けた情報収集」を行った。平成 22 年度においては、再構築モデルにおけるカリキュラム評価のグランドデザインを構築するとともに、その一部に位置づけられる「学生による授業評価」を実施した。またグローバル 30 プログラムに対応すべく、「学生による授業評価 (英語版)」も行った。さらに「学生による単元評価」の調査表を作成するとともに、「教員による授業の自己評価」を実施した。

平成 23 年度における活動目的は、1) 「教員による成績評価」方法の検討、2) 「学生による授業評価」と「教員による授業自己評価」の比較検討、3) 「教員相互による授業評価」の実施、4) 「学生による通年授業評価」と「学生による単元評価」の比較検討、5) 「潜在的カリキュラム評価」の事例検討、であった。

【2】構成員

○大森 肇, ○坂本昭裕, 小俣幸嗣, 本間三和子, 山田幸雄, 榎本靖士, 鍋山隆弘, 平山素子, 松元 剛 (G2 協力), 安藤真太郎, 門野洋

介, 桐生習作, 村瀬陽介, 山田永子, 吉松 (小田) 梓 (駿河台大学), 向後佑香 (体育科学専攻), 鈴木隆文 (体育学専攻)

【3】活動報告

1) 会議

定例会議を中心として 6 回の G3 全体会議を開催した。また、G3 の構成メンバーを顕在的カリキュラム評価 (成績評価, 授業評価, 単元評価), 潜在的カリキュラム評価, の四つのワーキンググループ (WG) に分けて役割を分担し、各 WG において活発な論議と作業が行われた事が報告された。G3 全体会議の概要は以下の通りである。

第 1 回 (平成 23 年 4 月 20 日) : 1) G3 の全体構成における各評価 WG の位置づけ・メンバー・役割分担の確認, 2) WG の編成 (成績評価 : ○山田 (幸), 鍋山, 村瀬) (授業評価 : ○大森, 榎本, 平山, 桐生) (単元評価 : ○本間, 安藤, 門野) (潜在的カリキュラム評価 : ○坂本, 大森, 榎本, 山田 (永)), 3) 潜在的カリキュラム評価として「体育受講が心の健康に与える影響を他大学の体育未受講生と比較調査する」ことを決定

第 2 回 (平成 23 年 6 月 22 日) : 1) 各 WG からの進捗状況報告, 2) 「授業評価」の一つである「教員による授業自己評価」に関する論議

第 3 回 (平成 23 年 7 月 28 日) : 各 WG からの進捗状況報告とそれに関する論議

第4回(平成24年1月11日):1)各WGからの進捗状況報告とそれに関する論議,2)平成23年度末に向けての作業内容の確認(学生による授業評価[G30学生を含む],教員相互評価,単元評価[3学期分]),3)平成24年度に向けての作業内容の確認(潜在的評価の内容,唾液ストレスマーカー使用に関する研究倫理委員会への申請,潜在的評価研究の公募について)

第5回(平成24年2月9日):SPERTプロジェクト平成23年度研究成果報告会(平成24年2月22日)に向けて,発表の全体構成・役割分担・内容等を論議

第6回(平成24年2月16日):SPERTプロジェクト平成23年度研究成果報告会の予行演習および発表の全体構成・役割分担・内容等についてさらなる論議

2) 研究成果

<調査表の作成および調査の実施>

- (1)「学生による授業評価」と「教員による授業自己評価」(平成22年度通年授業について)
- (2)「教員相互による授業評価」(平成23年度における指定授業の観察評価)
- (3)「学生による単元評価」(平成23年度1・2・3学期の各単元授業について)
- (4)「潜在的カリキュラム評価」の事例検討(「大学体育が大学一年生のメンタルヘルスに及ぼす影響」)

<研究成果口頭発表>

- (1)大森 肇,坂本昭裕,小俣幸嗣,本間三和子,山田幸雄,榎本靖士,鍋山隆弘,平山素子,松元 剛,安藤真太郎,門野洋介,桐生習作,村瀬陽介,山田永子,吉松(小田)梓,向後佑香,鈴木隆文:G3報告 大学体育 新カリキュラムの評価法の提案.筑波大学体育センター SPERT (Sports &

Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト 平成23年度研究成果報告会,つくば,2012.2.

- (2)大森 肇,榎本靖士,平山素子,桐生習作,坂本昭裕,吉松(小田)梓,小俣幸嗣,鈴木隆文:G3報告<授業評価WG> 学生による授業評価と教員による授業自己評価の比較.筑波大学体育センター SPERT (Sports & Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト 平成23年度研究成果報告会,つくば,2012.2.
- (3)門野洋介,本間三和子,安藤真太郎:G3報告<単元評価WG> G3単元評価WG進捗状況報告.筑波大学体育センター SPERT (Sports & Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト 平成23年度研究成果報告会,つくば,2012.2.
- (4)松元 剛,山田幸雄,鍋山隆弘,村瀬陽介:G3報告<成績評価WG> 大学体育における成績評価.筑波大学体育センター SPERT (Sports & Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト 平成23年度研究成果報告会,つくば,2012.2.
- (5)坂本昭裕,向後佑香,大森 肇,榎本靖士,山田永子:G3報告<潜在的カリキュラム評価WG> 大学体育が大学一年生のメンタルヘルスに及ぼす影響.筑波大学体育センター SPERT (Sports & Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト 平成23年度研究成果報告会,つくば,2012.2.

<研究成果報告書>

- (1)大森 肇,坂本昭裕:G3 平成23年度活動報告<知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践的研究 SPERT (Sports & Physical Education Renovation in Tsukuba)プロジェクト> 大学体育研究,34:67-69,2012.

<研究資料>

- (1) 向後佑香, 坂本昭裕, 大森 肇, 山田幸雄, 本間三和子, 平山素子, 鍋山隆弘, 榎本靖士, 安藤真太郎, 門野洋介, 山田永子, 村瀬陽介, 桐生習作: 大学体育が大学一年生のメンタルヘルスに及ぼす影響. 大学体育研究, 34: 39-45, 2012.

[3] 研究成果のまとめと今後の展望

平成 23 年度から, G1 および G2 の研究成果を基に再構築された筑波大学体育における新カリキュラムが始まった。新カリキュラムの特徴の一つは, 1) 健康と体力・スポーツ技術, 2) 豊かな心・社会性, 3) 逞しい精神・高い倫理観, 4) スポーツ文化, 5) 自立的な自己成長力, に集約される新たな教育目標を打ち出したことにある。今回, 従来の教育目標で行われた平成 22 年度の授業を, 敢えて新カリキュラム対応の評価方法で評価した。これは, 平成 23 年度からの新カリキュラムに対する評価との比較を想定してのことである。

平成 22 年度通年授業後に実施された「学生による授業評価」と「教員による授業の自己評価」を比較した結果, 総じて学生による評価の方が教員による自己評価より高かった。特に総合的な満足度が高く, 教員の指導法と授業計画・運営が高く評価されたことがその背景にあることが観察された。今後は教育目標と評価法が一致する平成 23 年度の評価と今回報告した平成 22 年度の評価を比較することで, 新カリキュラムの効果を検証していきたい。

新カリキュラムのもう一つの特徴は, 1 年次体育をスポーツリテラシー「スポーツを学ぶ」と位置づけ, 学期ごとにフィジカルリテラシー, スポーツマインド, スポーツスピリッツの各カテゴリーから科目を選択する新システムを採用したことにある。平成 23 年度 1 学期の「学生による単元評価」を平成 22 年度の「学生による通年授業評価」と比べると, カテゴリーに呼応した教育目標で高い得点が出る傾向にあった。すなわち, フィジカルリテラシーでは「健康と体力・スポーツ技術」で, スポーツマインドでは「豊かな心・社会性」と「逞しい精神・高い倫理観」で, スポーツスピリッツでは「逞しい精神・高い倫理観」で高得点が出る傾向が認められた。今後の展望として, 新カリキュラムにおいて学期完結の「単元評価」と「通年授業評価」とを比較することで, 学期完結型の効果を検証していきたい。

「教員による成績評価」方法の検討については現在進行中である。めざすべき方向は, 同一科目複数教員担当授業における 1) 授業内容と体系化の標準化, 2) 成績評価の標準化, であろう。また「潜在的カリキュラム評価」の事例として, 今回「大学体育が大学一年生のメンタルヘルスに及ぼす影響」について検討した。その結果, 大学体育が大学一年生のメンタルヘルスに対し, 全体として肯定的影響を示すことはなかったものの, 評価項目によっては肯定的な影響を及ぼす可能性があることが示された。今後は対象科目を広げてさらに検討することで, 新カリキュラム対応の科目が潜在的効果を持つか否かについて, 検証を深めていきたい。